

香川県 Shake Out シェイクアウト

(県民いっせい地震防災行動訓練)

令和5年度実施報告書

令和5年12月

危機管理総局危機管理課

1 シェイクアウトについて

シェイクアウトは、地震を想定して参加者が一斉に身を守る安全確保行動を行うという訓練であり、「場所を問わない」、「時間がかからない」、「それぞれの場所に応じて実施できる」といった特徴があり、他の防災訓練よりも多くの方の参加が可能である。

我が国では平成 24 年 3 月に東京都千代田区で初めて実施されて以来、都道府県や市区町村のみならず、自治会などのコミュニティ単位でも実施されるなど、全国的な広がりを見せている。

本県においては、平成 25 年度から 11 月 5 日の「津波防災の日」に合わせて、「香川県シェイクアウト（県民いっせい地震防災行動訓練）」という名称で実施しており、今年度も、家庭、学校、職場など普段の生活場所での訓練への参加を幅広く呼びかけた結果、1,141 団体、25 万 3,273 名の参加登録があった。

2 訓練の目的

東日本大震災の後、平成 28 年 4 月に発生した熊本地震では連続した 2 度の大きな揺れにより甚大な被害が発生し、改めて「自助」の重要性が認識されたところである。

本県に甚大な被害を及ぼすと考えられる南海トラフを震源とする地震については、今後 30 年以内の発生確率が 70%～80%と高い値となっている中、自らの身の安全を守り、被害を最小化するために、次の 3 点を目的として県民一斉に香川県シェイクアウトを実施した。

①地域防災力の向上

訓練を通じて県民の防災リテラシー（防災に関する知識や技術を自ら学び活用する能力）の向上を図り、「自分の身の安全は自分で守る」ことの意識を身につけていただき、災害に遭っても「ケガ」をしないことを基本に、身近な人を助けるなど地域防災力の向上に貢献できる人を育成する。

②普段の生活場所での防災対策の確認

広く県民に地震から身を守る行動を一斉に実施することを呼びかけ、県民自ら身の安全を守る行動をとっていただくことによって、地震防災の必要性を改めて認識していただき、家庭、学校、職場等での防災対策を確認するきっかけとする。

③津波防災の日の周知

11 月 5 日の「津波防災の日」は、1854 年に発生した安政南海地震の津波の際に、稲に火を付けて暗闇の中で逃げ遅れていた人たちを高台に避難させて救った「稲むらの火」の逸話にちなみ、2011 年 6 月に成立した津波対策推進法で制定されたものであり、この日を県民に広く周知する。

3 訓練の日時等

(1) 訓練日時

令和5年11月2日(木) 午前10時

※ 参加者の都合により上記の日時に実施できない場合は、日時を変更して実施

(2) 訓練場所

家庭、学校、職場など、普段の生活場所で実施した。

(3) 対象者

個人、団体(保育所・幼稚園・こども園、学校、企業、医療・福祉関係機関、自主防災組織)など、広く県民を対象にした。

(4) 想定

南海トラフを震源とする最大規模の地震が発生したことを想定した。

(5) 訓練の内容

訓練日時になったら、まず姿勢を低くし、頭を守って、その状態で揺れが収まるまで約1分間動かないという「安全確保行動1-2-3」(下図参照)を実施した。

なお、周辺に机やテーブル等の体を隠せるものがあれば、その下に隠れ、体を隠すものが無ければ、倒れそうな棚や落下しそうな照明器具、窓等のガラスなどから離れ、安全な場所を確認した上で、安全確保行動を実施した。



【安全確保行動1-2-3】

- 1 DROP! = まず低く!
- 2 COVER! = 頭を守り!
- 3 HOLD ON! = 動かない!

(6) プラスワン訓練

シェイクアウトは約1分間で終了するが、より一層防災対策の向上を図るため、安全確保行動以外にも、家具の転倒防止、備蓄品の確認、危険箇所の確認など身の回りの防災対策の確認、シェイクアウト後の避難訓練、家庭や組織内における避難場所・連絡体制の確認などの防災に関する話し合い等、シェイクアウトにあわせて「プラスワン訓練」を実施するよう呼びかけた。

今年度は、地震発生直後において身を守るためにとても重要な「家具の転倒防止」に加え、災害時に危険と思われる箇所やエリアを皆で共有し、リスク回避に繋げてもらうことを目的とした「危険箇所の確認」、さらに、職場や家庭などにおいて地震発生時に各々が行うべきことを意識してもらうための「役割分担の再確認」にも重点を置き実施を呼びかけた。

(7) 訓練開始の合図

消防庁・気象庁が実施する「津波防災の日に係る緊急地震速報訓練」、NTTドコモが開発したスマートフォン用「地震防災訓練アプリ」（設定した訓練日時に専用ブザーが流れ、さらに訓練メッセージが表示される）、RNCラジオで11月2日の午前10時に合わせて放送されたシェイクアウト訓練の放送を訓練開始の合図としたほか、各自での声かけや施設内放送等の合図により、地震が発生したことを想定し訓練を実施した。

同時刻に国が実施する、Jアラートを活用した緊急地震速報の伝達訓練に伴い、市町によっては防災行政無線の屋外スピーカーを活用して地震速報音声を試験放送する自治体もあり、それを合図とすることも可能であった。

(8) 参加登録方法

参加登録は、専用の参加登録用Webサイトからの申込みのほか、ファックス、郵送でも対応した。

4 香川県シェイクアウト実施に向けての広報活動

広く県民の皆様に参加を呼びかけるため、県、市町、商工会議所等の広報誌に記事を掲載するとともに、チラシ、ポスターを作成し、県内各自治体、学校、企業、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、自主防災組織、各種団体等に配布した。

また、テレビ（県政広報番組）、ラジオ（西日本放送）、ホームページ、SNS等のマスメディアを活用し周知・広報を行った。

さらに、今年度については、インターネットポータルサイトである「Yahoo! JAPAN」と締結した協定による取組みの一環として、スマートフォンのアプリ（「Yahoo! JAPAN」及び「Yahoo! 防災速報」）をインストールしている方に対し、シェイクアウトの実施に関するプッシュ通知にも初めて取り組んだ。

このほか、「香川県防災ナビ」（防災アプリ）等の登録者に対しては、別途周知を行った。



南海トラフ地震に備える!!

香川県 訓練参加事前登録募集中!!

シェイクアウト

県民いっせいで地震防災行動訓練

日時 令和5年**11月2日(木) 10:00**
※日時はこの日に限りませんので、ぜひご参加を!

場所 家庭・学校・職場など普段の生活場所

午前10:00になったら、1分間
身を守る3つの安全確保行動!

ブラスワン訓練 シェイクアウトにあわせて、「ブラスワン訓練」の実施をお願いします!

今年度は
次の項目を
チェックしましょう

- 「家具等の転倒防止」
- 「危険箇所の確認」
- 「役割分担の再確認」

命を守るための情報収集を
県民の命を守るための情報収集を支援する防災アプリ
「香川県防災ナビ」の資料を無料で配布で配布いたします!

申込方法 以下のいずれかの方法により、ご登録をお願いします。
1. Web登録 専用ページにアクセスして申し込みフォームから登録してください。
2. FAX・郵便 専用ページの申込書をお送りください。届いた時点で登録完了となります。

参加申し込み・お問い合わせ 香川県防災ナビ編集部 TEL:087-832-3183 FAX:087-831-8811

チラシ (表)
ポスター (B2判)



シェイクアウト訓練とは?

2008年にアメリカ・カリフォルニア州で始まった新しい形の地震防災訓練で、地域の緊急安全確保訓練1-2-3「まず座く、寝を守り、動かない」を身につける機会です。防災グッズの確認や、けがを防ぐための身の周りの安全対策をとるよう促すことも目的としています。

訓練の合図はあるの?

- 主催者から合図はありませんので、時間になったら各自訓練を開始してください。
- 実施日は11月2日に限りません。別の日でもご参加いただけます。
- スマートフォンをお使いの方は、地震防災訓練アプリをご利用ください。
- アプリを開き、右側のQRコード(2)を読み取ると、訓練の予定を登録できます。
- アプリを開き、右側のQRコード(2)を読み取ると、訓練の予定を登録できます。
- 訓練の日時になると、専用ブザー音の発音と訓練メッセージが流れます。
- 自分がいる場所の安全を確認し、身を守る行動を取ってください。
- 訓練アプリのブザー音は、スマートフォンの音で鳴ります。
- スマートフォンの音で鳴ります。
- スマートフォンの音で鳴ります。
- スマートフォンの音で鳴ります。

※西日本放送ラジオでは、11月2日の10時に合わせて、シェイクアウト開始直前の放送を行う予定です。

さらに「ブラスワン訓練」に挑戦してみましょう!

ブラスワン訓練とは、シェイクアウトをきっかけに、自主的に行う防災訓練（家具の転倒防止、備品の確認、避難訓練、危険箇所の確認など）のことです。

今年度は「家具の転倒防止」、「危険箇所の確認」、「役割分担の再確認」についてチェックしましょう。

ブラスワン訓練の例

- 家具の転倒防止
- 危険箇所の確認
- 避難訓練
- 危険箇所の確認
- 備品の確認

これらでのブラスワン訓練の参考をお送りします!
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kikikant/sogo/bossai/joho/plusone.html>

FAX・郵便での申し込み

香川県シェイクアウト2023 参加申込書	
香川県危機管理課シェイクアウト担当 行 (FAX: 087-831-8811)	
参加組織・団体の名称 (必須記入)	
参加者 氏名(姓・名) 住所 〒 番 部 区 町 丁目 番 号 TEL 番 号	<input type="checkbox"/> 個人・学生 <input type="checkbox"/> 会社・団体 <input type="checkbox"/> 学校・中・高 <input type="checkbox"/> 病院・大学 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> その他
実施予定日	令和5年11月2日(木)に実施 (※お申し込みの日に合わせて実施する場合は、実施予定日を記入してください)
参加人数	人 (所在地: 香川県()市()町()村())
参加経路	<input type="checkbox"/> Web登録 <input type="checkbox"/> FAX・郵便 <input type="checkbox"/> その他
シェイクアウトで「安全確保行動1-2-3」以外の訓練(ブラスワン訓練)を実施する予定があれば該当箇所にチェック	<input type="checkbox"/> 家具等の転倒防止 <input type="checkbox"/> 危険箇所の確認 <input type="checkbox"/> 避難訓練 <input type="checkbox"/> 備品の確認 <input type="checkbox"/> その他

※訓練終了後、ホームページでのアンケート調査に、ご協力をお願いします。

チラシ (裏)

5 訓練の参加登録実績

(1) 参加団体及び参加者数

1,141 団体、25 万 3,273 名

(2) 参加形態

参加形態	団体数	参加人数（人）
個人・家族	14	38
自主防災組織	33	32,094
高校・大学	46	36,029
専修学校・各種学校等	15	4,745
特別支援学校	10	2,015
小学校・中学校	210	79,296
保育所・幼稚園・こども園	308	33,749
医療・福祉機関	191	11,976
企業	196	18,660
協同組合・その他の団体	56	17,545
行政機関・公的機関	62	17,126
合計	1,141	253,273

(3) 市町別参加人数

市町名	参加人数（人）	市町名	参加人数（人）
高松市	149,370	土庄町	1,462
丸亀市	23,560	小豆島町	2,036
坂出市	11,401	三木町	4,550
善通寺市	10,010	直島町	353
観音寺市	10,717	宇多津町	5,015
さぬき市	7,521	綾川町	3,245
東かがわ市	3,836	琴平町	1,597
三豊市	10,901	多度津町	4,251
		まんのう町	3,448

(4) プラスワン訓練の登録件数（重複回答あり）

プラスワン訓練	登録件数
家具の転倒防止	170
危険箇所の確認	351
役割分担の再確認	393
家族との連絡方法の確認	116
避難場所までの経路の確認	313
備蓄品の確認	267
避難訓練	552
防災に関する話し合い	192
自主防災組織との合同訓練	27
小・中・高等学校との合同訓練	29
医療・福祉機関との合同訓練	2
その他	145

6 訓練の様子

【香川県庁】



安全確保行動（シェイクアウト）実施中



救護訓練



職員が各役割に応じた災害対応行動を確認
（初期消火班）



消火設備の取扱訓練

【香川県婦人団体連絡協議会】



イベント会場でも開会時に実施しました



手元のバッグ等で頭部を守ります

【坂出市立府中小学校】



地震発生！シェイクアウト！



揺れがおさまるまで動きません



「おはしも」を意識して避難します



運動場に避難し点呼をとります

7 訓練後のアンケート調査

今後のシェイクアウト訓練の参考とするために、参加者を対象にアンケート調査を行った。

(1) アンケートの調査方法

専用 Web サイトからアンケート調査を実施

(2) アンケート調査期間

令和5年11月2日（木）～12月15日（金）

(3) アンケート調査項目

- Q 1. 参加団体の形態について
- Q 2. 訓練の実施場所について
- Q 3. この訓練の情報を知った手段について
- Q 4. 取り組んだ訓練の内容について
- Q 5. 今回の訓練で防災について改めて気づいたこと
- Q 6. 今回の訓練に関する意見
- Q 7. 次回のシェイクアウトへの参加について

(4) 回答数

587 件

8 課題と改善点

(1) 参加人数・団体について

今年度「香川県シェイクアウト」への参加登録人数は、昨年度と比較すると2,630人増の25万3,273人となった。参加形態ごとに比較すると、保育所・幼稚園・こども園、小学校・中学校、専修・各種学校、高校・大学などの教育関係機関の参加人数が、全体の60%余りを占めており、教育現場にシェイクアウトが定着したことが伺える。

また、今年度100団体が初めて参加しており、近年の災害発生状況等を踏まえ、県民の防災に対する意識が高まっているものと考えられる。

単純に参加人数のみをもって成果を評価することはできないが、訓練に参加したことによって新たな「気づき」を得て、対策を検討する動機づけになるという効果がアンケート結果からも複数確認できることから、各家庭や地域での取組みも含め、少しでも多くの方が訓練に参加できるような環境を整えていく必要がある。

(2) 参加を呼びかける広報について

広く県民の皆様に参加を呼び掛けるため、報道機関（テレビ、ラジオ）や広報誌、ポスター掲示等により広報を行った結果、一定の効果はあったものの、訓練後のアンケートでは、回答者全体の6割に当たる方が職場や地域からの働きかけにより知ったことがわかる。

広報については発信するタイミング等により伝達できない場合もある一方で、スマートフォンのアプリを活用した通知機能による事前周知は、確実に伝達できるという点で一定の効果もあることから、引き続き「香川県防災ナビ」等の防災アプリの登録を県民に呼びかけ

るとともに、SNS も含めた多様な媒体を併用して周知することとする。

(3) プラスワン訓練について

今年度は、地震発生直後において身を守るために重要な「家具の転倒防止」に加え、「危険箇所の確認」、「役割分担の再確認」の3項目に重点を置き実施を呼びかけた結果、参加1,141団体中970団体から、延べ2,557件もの登録があった。

シェイクアウト（安全確保行動）に加えて各種の防災に関する取組みを行うことで、新たな気づきを得て訓練実施効果を高められることから、次年度以降もプラスワン訓練の意義や事例について周知するとともに、実施を呼びかけることとする。

(4) 訓練開始の合図について

昨年同様、開始合図として「地震防災訓練」アプリや、ラジオ放送が活用できる旨をホームページ、チラシ等で周知した結果、多くの団体で訓練合図として活用いただいた。

一方、訓練実施後のアンケートからは、地震防災アプリの鳴動不良についての意見や、訓練前後の参加者へ説明方法等について戸惑う担当者の意見もあった。

当訓練は、各訓練実施場所においてそれぞれ合図を行って取り組んでいただく関係上、参加しやすいような環境づくりに努めるとともに、参加者が訓練成果を高められるよう有益な情報を提供していきたい。

(5) 「香川県防災ナビ」によるプッシュ通知について

スマートフォン用の防災アプリ「香川県防災ナビ」の機能を利用して、アプリ登録者のうち訓練開始時刻に津波浸水区域内に滞在している者に対し、プッシュ通知の情報配信を実施した。訓練通知を受信して速やかに避難行動に結びつけてもらうことを目的としたもので、実際に訓練通知を受信した津波浸水区域内の登録者は5,065人であった。

この訓練を契機に「香川県防災ナビ」の機能を幅広く知ってもらうとともに、機能を正しく理解し、受け取った情報をもとに適切に行動に移せるよう、今後も訓練に取り入れていきたい。



通常時



非常時



プッシュ通知イメージ

9 おわりに

南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率が70%~80%と高い値となっている中で、地震による被害をできる限り軽減し、県民の安全を確保するためには、まずは「自分の身の安全は自分で守る」ことが重要である。

こうした中、平成25年度以降継続して実施している香川県シェイクアウト（県民いっせい地震防災行動訓練）は、今年度で11回目を迎え、県内一斉に多くの方に参加いただき訓練を実施することができた。

訓練後のアンケートに寄せられた参加者の声からは、シェイクアウトに参加したことで様々な“気づき”を得るきっかけになったという意見も多く、地震発生時に各家庭や職場においてどのように対応すべきかを参加者自身が体験し主体的に考えることを通して、防災意識向上につながっていくものと考えられる。また教育機関等では、職員の方々が児童・生徒の考える力を引き出すような訓練を設定されている様子も確認でき、学童期から継続した防災教育は、防災意識向上に大変効果的であるとも考えられる。

来年度も、さらに多くの方々に参加していただけるよう、プラスワン訓練を含めた訓練参加を引き続き呼びかけるとともに、他の取組事例を紹介するなど、各団体の訓練がより充実したものになるように取り組んでまいりたい。

アンケート結果

Q 1. 参加団体の形態について

種別	回答数 (件)
小学校・中学校	193
保育所・幼稚園・こども園	164
行政機関・公的機関	54
医療・福祉機関	98
企業	32
高校・大学	24
その他の団体	6
特別支援学校	8
自主防災組織	2
専修学校・各種学校	3
協同組合	1
個人・家族	2
合 計	587

Q 2. 訓練の実施場所について

項目	回答数 (件)
学校	230
職場	185
保育所・幼稚園・こども園	159
外出先	5
地域の集会場	1
その他	7
計	587

Q 3. この訓練の情報を知った手段について

項目	回答数 (件)
職場での案内	362
その他	74
ポスター・チラシ	71
インターネット	55
回覧板	12
口コミ・人から聞いた	6
テレビ・ラジオ	3
合 計	583

Q 4. 取り組んだ訓練の内容について（複数回答）

項目	回答数（件）
地震時の安全確保行動（シェイクアウト訓練）を行った	5 6 6
避難訓練や消火訓練等を行った	2 3 7
家庭・職場の環境を見直した（家具固定，整理整頓等）	1 7 7
災害時の連絡方法を確認した	1 7 1
非常持出品や備蓄品の点検を行った	1 5 9
その他の防災の取組みを行った	1 1 4
延べ実施数	1, 4 2 4

Q 5. 次回のシェイクアウトへの参加について

項目	回答数（件）
参加したい	5 8 3
参加したくない	3
無回答	1

Q 6. 今回の訓練で防災について改めて気づいたこと（自由回答）

※寄せられた御意見の一部を要約して掲載しています。

【個人・家族】

- 一人での参加となりましたが、時間を気にしていたら、学校と思われるところから、サイレンの合図が聞こえ、それに合わせて行いました。自宅の避難経路の確認を行うと細かい路地等もあり避難経路にふさわしいかと考えさせられました。非常持ち出し品は今回玄関に置くようにしました。

【保育所・幼稚園・こども園】

- これまでの避難訓練の積み重ねが生かされ、子どもたちは保育者の指示に従って安全確保行動をとることができていました。
- 1歳児2歳児の中には音に反応して泣いてしまう姿もあるので、安心して避難できるよう保育者の関わりや方法を見直していきたいです。
- 緊急地震速報の意味や地震の備えについて考えることができました。
- 当日、急遽職員数が少ない状態になったため、避難や引き渡しの準備・順序等を、声を掛け合いながら臨機応変に行いました。実際に地震が起こった場合にも、少ない人数で対応することも想定して、それぞれが声を掛け合う必要性を改めて感じました。
- 毎月訓練を行っていることは、子どもたちの記憶や意識にしっかりと積み重ねられており、いつもとは違う訓練となった時でも、保育者の声をよく聞き、落ち着いて避難する姿が見られました。継続していくことは、大事だと改めて気づきました。

（次ページへ続く）

【保育所・幼稚園・こども園】（続き）

- ・地震が起きた時の身を守るポーズや津波が起きた時にどこに逃げるのかなどをイラストや紙芝居を用いながら子どもたちと確認しました。
- ・保育室内や給食場は地域の放送や防災ラジオが聞こえにくかったので、対応の必要性を感じました。
- ・前日に災害用伝言ダイヤルのお試しを保護者や職員で体験する機会をつくりましたが、意外と使い方を知らず、実際にやってみておくことの大切さに気づきました。
- ・園外保育にでかけた先で、訓練に参加しました。初めての訪問先でも引率者が冷静に適切な指示を出すことが重要だと感じました。

【小学校・中学校】

- ・想定を色々変えながら、その場の状況にあった柔軟な対応ができるように指導することの大切さが改めて認識できました。
- ・目的をもって取り組むことの大切さに気づきました。事前指導、事後指導を行い、実際に起こった時を想定して行うことが大切であると思いました。
- ・学校内の地震による被害を予想し、経路上に障害物等を設置して行う中で、児童自身が自分事と考えられたのではないかと感じました。
- ・地域と家庭と学校が協力してシェイクアウト訓練や避難訓練、様々な体験学習を行うことで、児童だけでなく地域や家庭の実践力も培うことができたと感じます。
- ・地震後の津波からの避難を想定し、人数確認後、階段を使用した垂直避難を行いました。
- ・机の下等に身を隠したとき、教師も自分の安全を確保しつつ、児童が安心するような声かけを行うことも大切と感じました。
- ・軽傷の児童の対応は各担任ができるように、携帯用救急セットを各教室に配置し、持って避難できるようにしました。
- ・校内の放送施設からも流れました。近所の防災無線も聞こえました。
- ・休み時間に行ったので、個々の判断で迅速に行動することが必要となります。考える機会を設けることで、生きた訓練になると感じました。
- ・災害時の対応について話し合いをしている家庭が少ないように感じます。今回の訓練等を契機に、生徒から家族に災害時の対応が広がってくれたらと思います。
- ・車椅子の児童が参加したことで、対応について関係職員で再確認する機会となりました。
- ・本校は、非常勤の職員が多いので、常々、防災に関する共通理解を図る必要性を感じており、今回の訓練を機に、緊急対応について伝えることができました。
- ・取り残し児童、けがをした児童を設定しました。想定を色々変えながら、その場の状況にあった柔軟な対応ができるように指導することの大切さが改めて認識できました。

【医療・福祉機関】

- ・訓練を行うことで非常時にパニックにならず行動することが大切だと思いました。
- ・動けない人の安全姿勢確保、高齢者への声かけ・促し方、行ってみて気づけました。

（次ページへ続く）

【医療・福祉機関】（続き）

- ・1年前にも参加しました。机や棚の上に物を置かないようにしようと話し合いをしたにもかかわらず、物を置いている状況でした。日々、災害を意識し、物を置かないように徹底していこうと思います。
- ・災害が起きてから何をするのかを考えるのではなく事前の準備と災害を想定した訓練の重要性を再認識することができました。職場の訓練は家庭での行動にも繋がるので多くの職員の参加を引き続き行いたいと思います。
- ・避難所について、障がい者にとってのバリアフリーが進むことを望みます。
- ・事務所で勤務中に地震発生想定で行った。机の下に避難し下から見上げると、普段は便利でなんとも思っていなかったシンク棚上の食器が目に入り、目の前に落下してくる事がわかる。実際やってみないと気がつかないと思いました。
- ・全員安全な場所へ避難するには時間を要する為、ベッドから自分で起き上がれない方などへは周囲の落下物を防止するなどの対策を強化する必要があると感じました。
- ・老人デイサービスです。訓練に参加することで気が付くことがあります。利用者様によって対応が違うのでその都度スタッフ側で検討を重ねています。

【企業】

- ・海の近くでの工場で作業中に行ったが、改めて実際に地震が起こった場合にどう行動すべきか分からず、津波への対応についても判断が難しい、という意見が多くありました。
- ・シェイクアウト訓練から災害対策本部立上げ訓練を行いました。また今回は、緊急時の連絡体制等についての対応強化策を検討しました。
- ・現場での避難場所・経路の確認及び作業員への周知が必要と感じました。
- ・災害時の連絡方法を共有しておくで、多くの従業員への連絡がスムーズになりました。
- ・現地対策本部の役割の再確認や、どのくらい招集できるのかという視点に気がきました。
- ・外回りの営業スタッフが、車の運転中やお客様訪問時に地震が発生した場合の対応マニュアルを整備する必要があると感じました。
- ・毎年 火災避難訓練は実施していたが、地震を想定した訓練はしていませんでした。地震はいつ何時に起こるかもわからないので 今後も続けていく必要を感じました。

【行政機関・公的機関】

- ・訓練が始まって参加せずにそれぞれの業務に当たっている職員も多くおり、防災意識の低さを感じました。
- ・避難経路はもちろんのこと、人の動線を考えて、整理整頓や頭上になるべく物を置かないことが重要と感じました。
- ・イベント的な要素を加味するなど、来庁者等も参加したくなるようなアレンジが必要とも感じました。

Q7. 今回の訓練に関する意見（自由回答）

※寄せられた御意見の一部を要約して掲載しています。

【個人・家族】

- ・一人での参加なのでと思い参加登録をしませんでしたが、次回からはきちんと登録したいと思います。

【保育所・幼稚園・こども園】

- ・県民一斉に実施することで、全職員で防災について改めて考える機会になりました。保護者啓発にもつながっていると思うので、ぜひ毎年参加したいと思います。
- ・当日は園行事のため参加ができなかったと思っていましたが、日程の柔軟な対応が可能とのこと、別日に参加できてよかったです。
- ・今年のシェイクアウト訓練は11月2日になっていましたが、日程を固定した方が予定も立てやすく、定着するのではないのでしょうか。
- ・今後も参加したい。保護者、地域の方とも連携していきたいです。
- ・毎年、このような機会があることで、命を守る行動を意識して訓練に取り組むことができます。継続して取り組んでいくとともに、家庭にも啓発していきたいと思います。
- ・防災無線放送が聞こえにくかったです。
- ・自園だけの取り組みではなく、行政が中心となって県全体で行うことで防災意識の向上につながると感じました。

【小学校・中学校】

- ・避難時のポイントが分かりやすくまとめられており、子供たちも意識しやすかったです。
- ・緊急地震速報や地震音の貸し出しを行ってほしいです。
- ・年1回のシェイクアウト訓練の際に、なかなか普段できない備蓄品の確認や非常時の持ち出し品の点検ができるので、貴重な機会ととらえています。
- ・県のホームページにあった訓練用の放送を利用しましたが、揺れが続いているという想定1分間の効果音が軽い感じの音だったので、臨場感を得にくかったです。
- ・近隣の小中学校も同じように訓練に取り組んでおり、複数の場所で大人数が一斉に取り組むことで緊張感を持って訓練できるよい機会となっています。

【医療・福祉機関】

- ・防災訓練アプリを使用しての訓練を行いました。放送時間が短く、高齢者が行う訓練なので動くことにも時間がかかります。放送を長め(2分程)に行ってくれる防災訓練アプリがあればと思いました。
- ・高齢者施設で実施しました。入所者や通所利用者は足腰が悪く、机の下に隠れるのが困難なため、頭を守る行動を取ってもらっています。身体が不自由な方が安全にできる方法があれば知りたいです。
- ・災害時のエリアメールで一斉に始めるなど、皆が気が付くような形で合図があれば、参加しやすいと感じます。

【企業】

- ・ 今回の訓練を通して、災害時の避難について改めて考える機会ができたことは一歩前進です。このような機会を活用し、定期的に事業所として検討することが重要と思います。
- ・ 訓練に参加した証明等が発行できると、企業の参加も進むのではないのでしょうか。
- ・ 訓練は必要です。多くの人に参加してもらえよう、もっと周知を行ってほしいです。
- ・ 災害対応訓練を実施する時に、支援してもらえよう窓口があれば知りたいです。
- ・ 訓練アプリの音量が小さく、職場で実施する際に使いづらいため、良い方法があればありがたいです。

【行政機関・公的機関】

- ・ プラスワン訓練で初めて消火器の使い方を学びました。実際自分が使わなくてはならない状況になったときに役立てられるため、いい機会になったと思います。
- ・ 大規模な被災経験が少ない香川県であるため、行政の積極的な広報により、県民の防災意識を高めることが必要であると感じます。

アンケートに御協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

香川県危機管理総局 危機管理課